



いざ アフリカへ！ ザンビアへの長い道のり…

いざザンビアへ！…と、言葉では簡単ですが、ザンビアまではなんとも遠い道のりでした。まずは千歳～香港まで5時間 → 香港～南アフリカヨハネスブルグまで13時間！ → ヨハネスブルグ～ザンビアルサカまで2時間30分 → ルサカ～エンフエ村までセスナで1時間30分 → エンフエ空港～村までジープで40分という道のり！ 約24時間飛行機に乗りっぱなし！ 寝ては食べ、寝ては飲んでの繰り返し！ アル中になるかと思いましたが(笑)。機内は全部英語なので映画もどう見ればいいのかわからず、英語の必要性を実感いたしました。また荷物は預けるとかなりの確率でなくなると聞いていたので、機内に持ち込めるぐらいにまとめました。現地での洗濯は必須です！ 今回のメンバーはワンプラネットカフェのペオさん夫妻の他、バナナパートナーの皆さん 合計8名の素敵な皆さんとの大自然への旅が始まりました。



号外

阿部晋也

アフリカザンビアへ行く

発行所

日新堂印刷株式会社

〒062-0936

北海道札幌市豊平区平岸6条12丁目11-2

電話 011-837-9636

FAX 011-837-9919

ホームページ

www.nissindou.co.jp

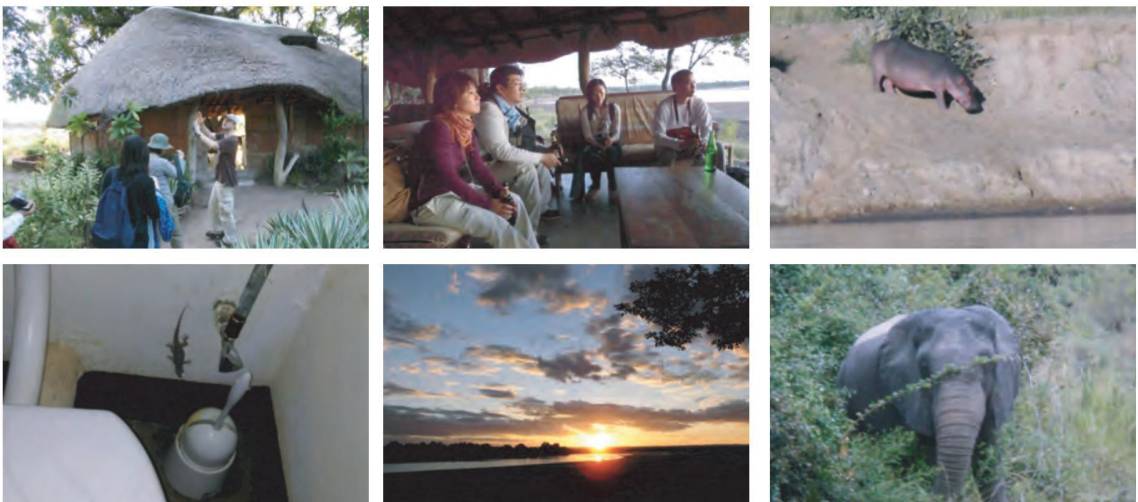
ベースキャンプは逆動物園?!

私たちが滞在中ベースキャンプとなるのは『ワイルドライフキャンプロッジ』です。ここは、名前の通りかなーリワイルド！ エンフエ空港からジープで約1時間弱。途中からは、まさにサファリの中のオフロードを走ります。現地の子供は本当に人懐っこく、車が通るとみんな声を上げて手を振って歓迎してくれます。

夕方、ロッジに到着するあたりからゾウやサルその他たくさんの動物たちが目の前にたくさん現れ大興奮！ 夢中でカメラのシャッターを押しました！ ロッジの目の前には、サウスルアンギ川という大きな川があります。何か大きなものがたくさんいるな～と思ったら、なんと！ 巨大クロコダイルとカバだらけ！ ガイドのピリーいわく、「こないだもロシア人がライオンに襲われてね…」なんて言うものだから、ひえーっ！ と叫んでしまいました(笑)。

夜は、離れになっているロッジからは絶対に出るにはいけないと念を押されました。レストランからわずか目と鼻の先の部屋でも動物に襲われてしまう危険があるそうです。部屋といえば網戸しかなく、カエルとトカゲ君と一緒に寝るはめになりました(笑)。耳をすますと、外から草を食べる大きな音が！ 窓をのぞくと3mくらいありそうな巨大なカバがおりました。もうまるでこっちが動物園の檻に入っている気持ちでした。

しかし夜空はバツグンにきれい！ 見たこともないくらい星が鮮明に見えました♪ この夜空を見ただけでも、来たかいたったというものです。



アフリカ
ザンビア
バナナ名刺
大好評発売中



バナナが
地球を救う!

和紙のようなやさしい風合

バナナ名刺はバナナの茎の繊維質が見え、和紙のような風合です。

厚さは約0.25～0.29mmですが柔らかめです。

詳しくは

ホームページで

www.nissindou.co.jp

🌿 この用紙は北海道の間伐材をリサイクルして作られています。

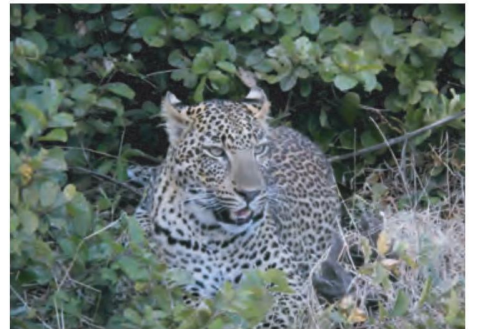


アフリカの国立公園は規模が違う！

ザンビアのエンフェ村のすぐ隣に広がる国立公園をご紹介します。

ここは公園といっても、膨大な敷地面積ですので、広すぎて日本でいう公園とはまったく違います。場所的には、私たちが泊まるロッジとエンフェ村との中間点くらい。ジープで10分もかからない場所です。密猟者から動物を守るレンジャー達が陸・空から監視をしており、公園内を案内するガイドも高い教育を受けた倫理観の高い方達が誇りを持って仕事をしています。

みんなルールを守り、お互い警戒心なく安全に、野生動物たちを目の前で見る事ができます。ここでは人間も動物も同じ生命体なので区分けが無いのです。広大なサバンナの中をジープで周ると、まさにジュラシックパークのようなワクワク感がいっぱい！ モーニングサファリとナイトサファリが人気です。



エンフェ村の生活

現地バナナチームが住んでいる村は空港までの間に点在する集落に住んでいます。今回は現地バナナチームの家にご招待いただき、生活の様子を見せていただきました。家の作りは、かや葺き屋根でできています。もちろん、水道・ガス・電気などは何も無く、夜はロウソクの明かりだけで生活をしています。周りには象がたくさんいて、家の中の食べ物を狙って踏みつぶされてしまう事件も多発しています。水は何とか、村に一箇所井戸のポンプがあり、みんなで利用しています。万が一、手動ポンプが壊れたら数キロ先にある川まで水を汲みに行くことになります。

車が珍しいようで、車に乗るとあっと言う間に子供たちでいっぱいになります！ いったいどこから出てきたのかな？ (笑) 明るく人懐っこく子供達は純粋でした。手をさしのべると、笑顔で握手をしてくれます。本当にかわいい！ 本当に純粋です！ 子供のかわいさは世界共通ですね！
ここでは、マラリアやエイズ(2割くらいが感染)で平均寿命は49歳くらいだそうです。子供も何人も産むので生活ができず、収入がある人が多くの子供(自分が産んだ子供でなくても)を養っています。食事は1日1回、エンシーマというトウモロコシをこねた団子のようなものに、野草と塩を入れて食べています。

しかし驚いたことに村の人達は携帯電話を持っているんです！ 何に使うか？ もちろん通話やネットに使うのですが、夜は明かりがないので、ライト代わりに使うそうです(笑)。ほとんどは中国、韓国やヨーロッパ製の携帯でした。日本製品はほとんど無く、さすが中国、韓国であります。村の大人達は本当にウェルカムな雰囲気です。女性たちは一生懸命に働きますが、男性はあまり働かなく、昼間からお酒を飲んで寝ている人もちらほら…。やはりどこへ行っても、女性の時代なんですね！ 貧しくても村の人達の心は豊かで、もしかしたら日本人より幸福度が高いのかもしれないね。

こうしてアフリカザンビアの旅はあっという間に過ぎてしまいました。1週間ほどの滞在でしたが、今までの価値観が変わるほどの素敵な体験ができました。もし機会があったら、皆さんにも体験してほしい！ そんな気持ちでいっぱいになりました。

